

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
63

2019 弥生・卯月

特集

生きる力を育む道院 Part 4

「人が集う道院づくり」



生きる力を育む道院 Part 4

「人が集う道院づくり」

昨今は少林寺拳法創始当初と比べ、入門動機や道院に在籍する年代層も大きく変化している。開祖が目指された人づくりの理想は変わらないが、道院に集う人はその時代を反映したものとなる。2025年問題などの超少子高齢社会を見据え、道院は今後どのように人を受け入れていくのか。そのヒントを探るべく、多様な年代層が集う名古屋瀬古道院を訪れた。

名古屋瀬古道院は、名古屋市の東北部に位置する守山区内にある。比較的人口の多い区であり、道院付近の人口だけでも1万1500人、4600世帯が住む町にある。道院には、道院近辺だけでなく他の市町村や県外から通う拳士、近隣道院から修練に参加する拳士もいる。拳士数は69名。内、兄弟拳士が16組34名、正拳士以上の幹部が11名在籍している。中学や高校、大学を卒業しても続ける拳士が多く、非常に活気がある。設立は開祖が亡くなる前の1979年、今年でちょうど40周年を迎える。



井神健二道院長

雰囲気づくりが大事

道院に着くと、道院長が一人一人に「よく来てくれた」と笑顔で声をかけ出迎えてくれます。「拳士達は来ることが当たり前ではない、まずは来てくれたことに感謝の気持ちを持つことが大事」と話す井神道院長。小学生であれば習い事、中高生はクラブ活動、一般は仕事や家庭の事情など、拳士には道院以外にもそれぞれの環境があり、中には道院に来る前から疲れ切っている人もいるかもしれません。しかし、ある拳士は「道院に来たら疲れがすべて吹き飛びます」道院は心のオアシス

です」と明るく話してくれました。相手の立場や気持ちをよく理解してくれる道院長が温かく迎え入れるので、とても居心地が良いのでしょう。道院長の温かさもあり、道院内は普段から笑顔と明るさで溢れ、道場全体がフレンドリーな雰囲気に包まれています。

井神道院長は雰囲気を特に大事にされており、それは修練の指導においても変わらないようです。技術は大事にしつつ、「教え方によって拳士の成長の仕方は随分変わる」という考えから、「型にはめた指導はしない」「自由な発想で楽しく、面白く行う」というのが井神道院長の方針です。時には組む相手を指示する、人数が少ない日はできる限り手を取って行う、幹部にも指導を任せるなど、その時々で最も効果的な指導法を選択されていました。

「相手の置かれた状況を理解し、日頃から拳士達のことを良く見ているからこそ、拳士達のニーズに敏感に対応できる」と井神道院長は言います。そのことにより「楽しいからまた行きたくなる、楽しいから続けられる」というよい循環が生まれているようでした。



修練は楽しく面白く 指導法の工夫は怠らない

また、雰囲気づくりの二つとして道場の内装にも気を配られています。祭壇周りには赤と黒を基調とした色で趣

担当/富田雅志



祭壇周りの配色は黒と赤を基調。行事の時には、盾卍の幕を張る

を持たせ、掲示物には幹部拳士が字
体をデザインして掲示し、儀式や行事
を行う際には盾卍の幕を張るなどのこ
だわりが伺えました。

安心感のある場所

道院には多様な学年、年代の拳士
が在籍していますが、どの年代の拳士
が来ても居心地の良さを感じるよう
です。道場内を見渡すと、小学生だ
けでなく、中学生、高校生、一般の拳
士、さまざまな年代の拳士がいます。
現在、最年少は4歳。未就学児も設
立当初より受け入れてきたそうです。
井神道院長にその理由を尋ねると「多
様な年代の拳士を受け入れることで、

道院長自身が鍛えられる、自分自身
も成長できる」と答えられました。
ある保護者は「見学に行くと自分の
子と同じぐらいの子がいるんです。そ
の子がかっこよく演武をしたり集中し
て練習していたりと、うちの子もあんな
風になれるかもと思えるんです」と
話されていました。

鎮魂行の時に、まだ教典が読めない
い子に上の子達が付いて教えてくれる
光景は全国どこでも見受けられます
が、名古屋瀬古道院でも同じでした。
ただし、「後輩に指導しなさい」とはあ
えて言っていないそうです。ある拳士
にそのことを尋ねると「自分達は入門
時に親切にしてもらったことを当然の
ように、新しい子達に実践しているだ



「半ばは他人の幸せを」という教えをまずは身近な拳士に実践する



いるだけで喜んでもらえる
修練以外でも必要とされる場面がある

け」とのことであり、鎮魂行に限らず
そのような光景がさまざまな場面で
見られました。

また、社会人であれば仕事で、女
性の方は出産、育児で来られなくなる
時期も出てきます。ある拳士は道院
長から「籍はおいておくからいつでも
戻っておいで」「いるだけで皆が喜んで
くれるよ」と言ってもらったそうです。
そして道院に復帰した時には、「よく
来てくれたね」と笑顔と握手で迎えて
くれたことが大変嬉しく、だからこそ
今も続けられると語っていました。

別の拳士からは「道院長は相手の目
線に合わせる事がとても上手です。
相手の年齢に関係なく、誰に対しても
フレンドリーに接してくれます」「決
して威張ったりしませんし、それでい

てご自身が学んだことを一生懸命に伝
えてくださいます」といった声もあり
ました。このように拳士一人一人を大
事にされていることが、道院の居心
地良さを作り、修行の継続率や修練
の参座率を高めているようです。

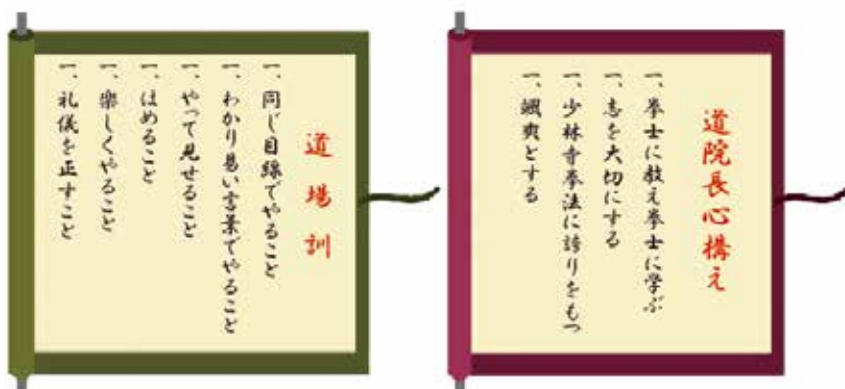
心の支え

井神道院長は開祖から直接指導を
受けられたことが、道院長として40
年継続される礎となっています。井神
道院長は東海地区武専の1期生にあ
たりますが、当時、高等師範科は本
部にしかなく、2年間寝台車と宇高
連絡船で本部に通われたそうです。当
時の体験は井神道院長の中で貴重な
財産とも言えます。

そして、大きな支えとなっているの
は、名古屋吹上道院の原為雄道院長
の存在です。原道院長は別の道院か
ら転籍してきた先輩拳士であり、原
道院長が道院を設立されたことに影
響を受け、井神道院長も設立を決意
されています。原道院長とは一緒に演
武を組んだことはもちろん、互いの結
婚式の仲人をするなど、一拳士の時代
から50年来の付き合いで、まさに「拳
友」とも呼べる仲です。同年代の気
心知れた仲間が今も道院長として頑
張っていることは大変心強いことのよ
うです。

道院長心構え 道場訓

そんな井神道院長ですが、道院の拳士に尋ねると、拳士との接し方や指導において心掛けられていることは昔も今も変わらないとのこと。井神道院長は、独自に「道院長心構え」と「道場訓」を作り、道場にも掲示して常に意識していると言います。



法話では、日常的な社会の出来事を主に、「自分だったらどうするか、どう思うか」を問う。

井神道院長はこれまでに大きな病気やけがはなく、病気で道院を空けたことはないと言います。しかし、実際には人間だから大変な時もあり、そんな時も「道院長心構え」にある「颯爽とする」を心掛け、拳士達の前で颯爽とふるまっていたそうです。その結果、拳士達も口を揃えて「道院長が元氣のない姿を見せたことはない」と言います。大変な時だからこそ颯爽と生き、それを見た拳士達が良い影響を受けるようです。

これらのことを日々意識して修練

に臨まれています。修練が終わったあとは、「今日の指導は良かったのか。もっと工夫が必要だったのではなか」と自宅に帰りつくまでの間に車の中で、必ず振り返っているそうです。長年道院を運営しながら、決して現状に満足せず、より良い状態を求めていくという姿勢が大変印象的でした。

取材を終えて

取材中、井神道院長は拳士が道院にやって来るたびに「この親子拳士がいたから口コミで少年拳士が増えた」「仕事が忙しい時に彼女が代わりに道院に駆けつけてくれた」などのエピソードを交えながら拳士を紹介してくださいました。この紹介を聞くだけでも井神道院長がいかに拳士一人一人を大事にし、深く感謝しているかが分かります。

拳士へのインタビューでも、井神道院長が話されていたことと同じ内容が聞け、井神道院長の教えが拳士達にも染み込んでいるようでした。

笑顔と安心感があり、また行きたくなる道院。全国にはそのような道院がまだまだたくさんあります。今後も継続して誌面で取り上げさせていただきます。



修練終了後は、道院長だけでなく幹部も一緒に子供達を見送り。保護者との会話をする大事な時間にもなる。



拳士に教えることで拳士から学ぶこともたくさんある。



開祖語録 ダイジェスト

1969年8月
整法講習会



精神生活に入ろうではないか

「反省をする、「感謝」の気持ちを持つ、それから「持戒」。この三つが精神修養の根本なのだ。戒を持つというが、禁止の掟である「律」とは違って、「戒」というのは、乱暴に言えば、悪いことをしないようにがんばるといふ努力目標だ。己に克つ努力といってもいい。

ついでにだけ、己に克つための修行、具体的にどういふことをやりますかと問われて返答できるか、君たち。煙草吸うてたらやめてみて。何でもいい、自分の欲しいものを断つ。これが己に克つ一つの方法である。

それから、感謝の気持ちを持つ。何かしてくれたら、それを当たり前だと思ふのと、ありがたいと思ふのでは大変な違いなのだ。感謝する気のないやつは、人に尊敬もされなければ喜んでもらえないぞ。

友達が何かちよつとしてくれても、ありがとうと言つてみて。気持ちがいいぞ。人生が本当に豊かになる。

反省も必要だ。えらいことをした、二度と繰り返すまいという気持が必要だ。なんにも難

しくはない。誰にでもできるはずである。

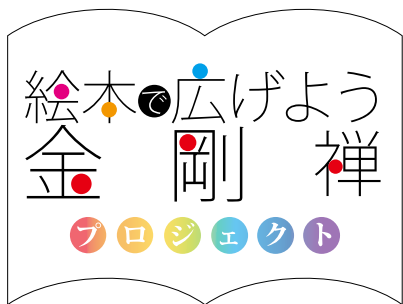
人間というものは、心の働きの大切である。権利義務ではない。感謝と奉仕の世界、これが宗教や道徳、要するに人間の社会なのである。

それでね、君たち、今日からこういう精神生活に入ろうではないか。たとえば、体の古傷はもう忘れてしまっているだろう。体の傷と同じように、心の傷も今日から忘れようではないか。

人生では挫折感に陥るようなこともある。ところがこれはいくら考えてみても、昨日のこととは取り返せない。別れた彼女のことや就職できなかつたこと、悩んでみたつてしようがないじゃないか。

昨日は昨日、今日は今日、明日は明日だ。これが、精神生活を改造する根本になる。

過去は一切きょうから忘れろ。いいことは忘れんでいい。いやなことは忘れてしまえ。忘れようと努力しろ。とにかく気分転換することを勉強しなさい。



京都修学院道院
道院長 永江健将

り、いつもはおとなしい子が声を出して笑ったりして、普段の稽古とは違った子どもの一面を見ることができます。

金剛禅の目的は、人づくりです。その手段は、もちろん少林寺拳法の修練がメインであることは間違いありません。しかし私は、それだけに限る必要はないと考えています。絵本の読み聞かせを通して子どもたちの想像力、前向きさ、生きる力を育むことができると信じています。

というような難しいことを実はあまり考えず、ただ楽しいから、私は絵本を読んでいます。

楽しいから絵本を読んでいます

息子が小さい頃は、毎週のように図書館から絵本を借り、年100冊以上読んでいました。金剛禅で絵本プロジェクトが始まり、「道院で絵本を読み聞かせてもいいんだ」と、目から鱗が落ちました。

12月15日(土)、絵本プロジェクト顧問の三浦伸也さんに京都修学院道院に来ていただき、絵本Liveをしていただきました。私はまだまだ三浦さんの様に初対面の子どもの心を鷲掴みにはできませんが、継続して読み聞かせを行っております。読み聞かせのコツは、何も考えずに、とりあえず、やってみて、感じてみることだと思います。

読み聞かせを始めると、目をキラキラさせて聞いていた

今回読んだ絵本

◎ あっぱれアスバラ郎

作・絵：川端 誠
出版社：BL出版

じゃがの一家と対決した剣士忍者アスバラ郎！ 最後は必殺アスバラ「ガス」！ すると、アスバラ郎は……。



ダーマの加護を得られるべし

道訓の最後に「ダーマの加護を得られるべし」とあります。その前文に「故に天地を敬い、神仏に礼し、祖先を奉じ、双親に孝に、国法を守り、師を重んじ、兄弟を愛し、朋友を信じ、宗族相睦み、郷党

相結び、夫婦相和し、人の難を救い、急を援け、訓を垂れて人を導き、心を至して道に向い、過を改めて自ら新にし、悪念を断ちて、一切の善事を信心に奉行すれば、…」という人道としてなすべきことがあります。いうまでもなく、その実践の対価として文字通り「大いなる御力」
「ダーマ」に護ってもらえるという意味ではありません。

我々の基本姿勢は聖句の中にあります。それは、自分にかかわることは自己の責任において主体的な行動を心掛け、頼りになる自分をつくることであり、善因善果・悪因悪果、すべては自分の行いに因る結果であり、自分の人生を他者や神仏・運命のせいにはせず、自分ができるこ

とを為さなければ何も変わらない、ということを示唆しています。そうであるからこそ、我々は自分の人生を受けとめる強い人間に変わることができると信じて修行しています。

社会の道徳・規範を守ることが必要なのはいうまでもなく、また、道徳・規範は社会や時代によって変わるものでもあります。「道徳的判断」は自分自身が無意識に身につけているもので、反すると後ろめたさや嫌な気持ちになるばかりか、感情を波立たせ他人との対立にもなりかねません。日常生活の中では、大震災など大きな自然災害から身の回りで起こる小さな事まで、その瞬間に「判断し行動する」ことの連続です。そのため正しい判断ができる力を磨くことが重要であり、我々は他人が見ていようと見てまいと「すべて悪しきことをなさず、善きことを実践し、自己の心を浄むること、これ諸々の佛の教えなり」という言葉の示すとおり、

努力し続ける姿勢を大切にしています。そして、時代や社会に左右されることのない「ダーマ」の道(天道)を抛り所とし、それに気がつく感性を磨き、実践の適用としての信条を唱え、自らの姿勢を振り返るのです。

我々は縁起の法則の中で生きており、自分の力だけではどうにもならないことがあります。

それは、現在の自分の身に起きている現象(結果)は、過去の自分の行い(原因)が時間や空間を超えて巡り、自分の身に返ってきているものだからです。善い原因を重ねた結果が「ダーマの加護を得られるべし」であり、善くない結果であっても、行を通して素直に受けとめられる平常心(胆力)を身につけ、未来をより良いものにするようにと修行を続けることが大切だと思います。50歳後半となった私は自分の人生を振り返り、また、日々起こる出来事をこのような思いで受けとめています。

2018年度布教助成制度活用事例

わたしの工夫

特別編

道院運営へのヒント……
もって道院の活性化、拳士の
育成につなげていこうという
コラムです。

今回の布教助成制度を活用したのは……



とうきょうおもてさんどう
東京表参道道院
2012年設立。南青山に
35畳の専有道場を構え
る。修練日は月～土で、
参座曜日や時間は希望に
応じ対応。在籍約40名
で全員が成人。うち四割
超が女性。

やました まゆみ
山下真由美道院長
大導師准範士六段 506期生

既存の演武会のイメージをくつがえすプレゼンテーション

2018年10月14日。日曜日の人ごみで溢れかえる渋谷のど真ん中、一等地の大通りに面したシダックスカルチャーホールにおいて、東京表参道道院の第3回公開演武会が行われた。

ホールの特性を活かし、映像と音声でステージにしっかりと観客の目を引きつける。

時折差し込まれた手づくりの動画は、レポーター目線で画面が動き続け、道院活動の表裏を斬新な目線で切り取っていた。少林寺拳法を知らない人が疑問に思うであろうことを的確に答えていくので、観ている側はどんどんのめり込んでいく。

1 際立つ演出 登場する拳士はスーツ姿 明確な道院のコンセプト 2 際立つ演出



前半、一般拳士がスーツ姿で登場し、少林寺拳法と自分の関わりや、それによって自分がどう変わったかをプレゼンテーションしていく。教えと人間関係が基軸となり、人として強く生きていく姿勢が備わってきたということがよく伝わってきた。

後半になるにつれ、技法の紹介が徐々に織り交ぜられていく。その節目で登場した法衣姿の女性道院長はずいぶん新鮮に映ったであろう。山下道院長のメッセージは、誰に対して（働く女性に対して）どのような活動を（強くお洒落に人生を楽しむとい

うことを）展開しているのか、という道院活動のコンセプトが明確で、前後の映像やプレゼンテーションと相まって、「道院＝生き方を学ぶ場所」であるということがしっかりと伝わってきた。

登場する全ての拳士が自分の役割に対して真剣で、一生懸命に表現しようとする姿は爽やかであった。演武会と言いながらも法衣や道衣（非日常）の登場時間は半分程度で、スーツ姿（日常）によるスライドを活用した少林寺拳法の成り立ちや理念のプレゼンテーションをメインとしたところに新たな可能性が垣間見えた。



山下真由美道院長による事業報告（一部抜粋）

- 観客の6割以上は少林寺拳法を全く知らない方でしたが、通りすがりの外国人カップルも最初から最後まで食い入るように見ていただきました。
- 単なる武道とは違うことが分かり、イメージが変わったという声もあります。
- 拳士がそれぞれの得意分野を生かし、主体性を持って取り組みました。あらためて少林寺拳法は素晴らしい人材の宝庫であり、開祖のおっしゃっていた、尊敬し信頼できる仲間にも囲まれていることの幸せを実感しています。
- その後、体験入門に訪れた方もいて、手応えを感じています。

担当／倉本亘康

道院長

vol.45

元気の素



岡山県・岡山真庭道院
道院長 黒田 靖 (44歳)

「今何をすべきか」を考えて行動する

私が入門した倉敷道院は、自宅から車で1時間半かかる場所にあり、仕事帰りに修練を続けていきましたが、次第に足が遠のき休みがちになっていきました。しかし心の中では、「地元」に道院があればもっと練習できるのに……」とも思っていました。そんな折、近隣道院の道院長、拳士達との懇親会の席で、「地元」に道院を設立するのが夢です」と先生方や先輩方の前で話したのがきっかけとなって、師である白神三郎道院長に背中を押され道院を設立、道院長になることになりました。



私は、「今何をすべきか」を常に考えて行動することが必要だと考えています。それは、一人の間でも、その場その場、その時その時で立場が変わります。今、自分が置かれている立場を明確に

して行動することが大切だと考えているからです。このため私は、修練が始まる前までは普通のおじさんであり、いざ修練が始まるとあくまで指導者としての立ち居振る舞いを心がけ、修練とその前後のメリハリを付けるようにしています。また、少年部の拳士に対しての指導方針としては、出来たことに対して、褒めるのではなく、認めることを心がけています。なぜなら、褒めて育てるのは、保護者の役目であり、指導者の役割は、あくまでも拳士の向上心を養うことであると考えているからです。

道院長になってこそ

少林寺拳法の醍醐味が分かる

道院の運営は、思っていた通り大変なものです。その分、やりがいもあります。新米道院長の私には、運営面においても指導面においてもまだまだ課題が多いと感じています。

今は、周りの先輩方の助言や助けを借りながら、なんとか日々をこなしている段階です。開祖の言われた、真の指導者になることが当面の目標です。しかし、この目標は、きつと到達することができない、永遠の目標なのではないかとも感じています。また、この目標こそが、生涯修行である少林寺拳法の醍醐味そのものではないかと考えているので、毎回の修練がとても楽しみです。

自分で居場所をつくる

振り返ると、私はいろんな場所で、自分の居場所を自分で作ってきました。中学では自ら手を挙げクラブの部長を務め、高校では新しい部活を立ち上げて活動し、そして社会人になってからは、

バンド活動を行うため、友人の協力を得て練習するための音楽スタジオを自分で作りました。現在は、修練時間に間に合わせるために、私の理解者が設立した会社に所属し、道院の拳士に迷惑がかからないようにすることに成功しています。家族は最初、やはり多少の不満もあつたようですが、今では、金剛禅の活動を理解して、私を応援してくれています。何事も一所懸命に努力すれば、それが正しいことであるならば、自然と周りも理解を示してくれ、協力してくれることを実感しています。もちろん、協力してくださっている方に対し、感謝の意を伝えるため、私からも積極的に奉仕することを心掛けています。少林寺拳法が大好きな拳士の方は、ぜひ道院長になってもらいたいと思います。道院運営は楽ではありませんし、それなりの覚悟も必要だと思います。私は、道院長資格認定研修会での面接の際、「道院長という責務を自身自身に課すことが、最大の修行になると考えています」と答えました。この考えは、今でも変わりません。金剛禅を最良とし、少林寺拳法の修行にやりがいを感じている拳士であれば、道院長という立場は、最高の修行の場になるはずです。自己確立の教えを身に付けるためには、多少の困難や苦しいことであっても、それを乗り越えやり通す、くじけない心が必要だと思いますし、それを門信徒たちと一緒に鍛え、身に付けてほしいと思います。



※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

開催報告

● 本山公認教区講習会(派遣講師)

〔11月11日〕熊本県教区(川端哲)
〔11月17日〕東北地方教区(大澤隆・前田保男)
〔11月18日〕兵庫県教区(川上鐘成)、
静岡県教区(久保田利幸)

〔11月25日〕東京都教区(湯浅裕二・江原謙治)、徳島県教区(松本好史)

● 教区研修会

〔11月18日〕神奈川県教区
〔11月25日〕千葉県教区
〔12月9日〕三重県教区、広島県教区
〔12月16日〕岐阜県教区

● 小教区研修会

〔10月31日〕東京第四小教区
〔11月3日〕埼玉第十小教区
〔11月5日〕長崎島原小教区
〔11月7日〕山形庄内小教区
〔11月11日〕福島県中小教区、岐阜中濃小教区、京都東小教区、大阪堺小教区

〔11月17日〕栃木東部小教区
〔11月23日〕神奈川県第一小教区、
神奈川県第二小教区

〔11月24日〕栃木南部小教区
〔11月25日〕東京第一小教区
〔11月28日〕東京第五小教区
〔12月2日〕東京第十五小教区、兵庫東播第一小教区

〔12月9日〕埼玉第八小教区
〔12月12日〕奈良桜井小教区
〔12月23日〕埼玉第五小教区、静岡伊豆小教区

豆小教区

〔1月13日〕和歌山海南・中紀小教区

女性拳士交流会

● 少林寺拳法女性拳士
交流会 in 京都

2018(平成30)年11月17日(土)、
京都翔英高等学校第2体育館にて女性拳士交流会が開催されました。

技術講習には新井庸弘先生をお迎えし、時間が短いながらも、とても分かりやすく、丁寧に指導していただいたおかげで、女性拳士ならではの悩み解消となったようです。

また総裁とのガールズトークを行い、総裁と間近で話ができる喜びで、みんな生き生きと輝いていました。

午後からの班別発表会では、40分程度の間に、自己紹介、創作演武、寸劇の練習を行いました。女性拳士の団結力、パワー、そして行動力が一番に発揮された時間で、どの拳士もとても楽しそうでした。

改善点としては、開催について広くPRできる手段が必要だと感じました。

今回は、京都府教区・所属長をはじめ多くのご支援をいただき、感謝しました。



この支援を次回開催予定の九州へ、多くの参加希望拳士とともに届けたいと思います。
(牧野明美)

松阪西道院

勤続30年記念祝賀会

2018年の1月、本山にて「道院長勤続30年表彰」を受けたことを機に、道院拳士が祝賀会を企画してくれました。

11月23日(金・祝)の開催日には、初めて設立した鎌田中学校支部時代の懐かしいOB、現役拳士でもある竹下真人松阪市長をはじめ、保護者や関係者が出席され、充実した時間を共有することができました。

竹下市長からは、「武道家には偉そうな人が多いのに、林先生は全然違う。修練に行けなくても、黙って見守ってくれている」という心温まるごあいさつをいただきました。

スライドショー上映のため、勤続30年の間に撮りためた5000枚を超える写真を整理。3種類の映像を約2か月の間、ほぼ徹夜で制作し、発表したところ、大好評でした。この映像を祝賀会の記念品として配布し、後日、欠席者にもお届けしました。横断幕の作成や写真撮影も、本職とする拳士



で行い、アットホームに実施できてよかったです。都合で出席できなかった拳士も、後日会いに来てく

れたりメールをくれたりと、改めて絆の深さを感じることができました。

今回の祝賀会を企画した実行委員会の6名は、次の「松阪西道院設立25周年」に向けて、すでに心を燃やしながら頑張っています。

多くの方々の支えで歩むことができた30年。今後もさらに絆を深め、頑張ってください。
(林勝敏)
王寺・大和郡山南・奈良斑鳩道院
2018西大和の三道院
による合同演武大会

11月25日(日)の午前中は部内の集い、午後2時より大会長に平井康之王寺町長様ほか多数の大会役員・顧問の先生方をお迎えし、一年間の修行の成果を十二分に発揮しました。

朝早くから、王寺道院・大和郡山南道院・奈良斑鳩道院の拳士とその保護者100人を超える人数が集まり、会場が割れんばかりの気合でした。改めて、開祖が少林寺拳法を創始された理由、昨今の日本および世界の情勢不安を今一度考え、金剛禪の教えである「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」の大切さを考え直さなければ



ならないと感じました。少林寺拳法の修行を通しての気づき、まずは身近なところからできることを考

え、実行していくことを誓い、大会を終えました。
(王寺道院・桑野靖英)

本山 金剛禪総本山少林寺 新春法会

2019(平成31)年1月13日(日)、本堂において、約650名の参列者が見守る中、金剛禪総本山少林寺新春法会が厳かに執り行われました。大澤隆金剛禪総本山少林寺代表より、年頭のあいさつとして、「これから迎える超少子高齢社会の問題をはじめ、さまざまな問題がありますが、金剛禪の自己確立・自他共栄の考え方を実践し、平和で豊かな社会の建設に挺身できる人づくりを加速してまいります」と、力強いメッセージが発信されました。その後、川端哲関西地方教区総代が、門信徒を代表してあいさつされました。また、新春法会の前日には、表彰式・認証式が執り行われ、勤続55年の久保博東京目黒道院長をはじめ、勤続50年9名、勤続45年13名、勤続40年13名、勤続35年13名、勤続30年16名、勤続25年14名、勤続20



9年9名、勤続10年17名の表彰式出席者に対し表彰状が、認証者33名には辞令が代表から授与されました。(宗務局布教課)

九段特別昇格者



秋吉 好美 (多摩豊田道院)

僧階昇任者

権大導師

2018年12月1日付

鈴木 司郎(浅草蔵前道院)

中導師

2018年12月1日付

佐久間 靖(郡山道院)

権中導師

2018年12月1日付

新戸部 一弘(十和田道院)
今野 善充(仙台社都道院)
石神 克己(東松山道院)
佐伯 由美子(東京昭島道院)
稲村 直樹(東京目黒道院)
川添 昭博(国立中スポーツ少年団)
中島 仁(神奈川大和道院)
重 世紀(東戸塚道院)
中島 久美子(神奈川大和道院)
西出 あゆみ(信州宮田道院)
内藤 大将(三方ヶ原道院)
三浦 命(三重千種道院)
國貞 篤(三重桑名道院)
寺川 和代(滋賀瀬田道院)
金子 茂(久留米南道院)

少導師

2018年12月1日付

佐藤 桂司(札幌屯田道院)
酒田 季法(札幌屯田道院)
松島 良弘(札幌屯田道院)
日下 幹大(札幌あいの里道院)
長谷川 伸司(盛岡中部道院)
石塚 幸夫(常総石下道院)
野仲 茂(つくば花畑道院)
加香 季衛(つくば花畑道院)
石井 総一郎(真岡中部道院)
石川 優美(群馬多々良道院)
針谷 藍子(群馬伊勢崎道院)
岡田 隆(群馬太田道院)
芝尾 匡己(群馬太田道院)
土屋 佳緒里(群馬太田道院)
齊藤 真二(埼玉中部道院)
大久保 友貴(埼玉中部道院)
小川 真佐人(川越道院)
沖田 優(埼玉行田道院)
山下 泰敏(埼玉鶴巻道院)
堀澤 一彦(東京目黒道院)
若本 聡浩(東京目黒道院)
菅生 綾也(東京目黒道院)
角谷 謙大(東京目黒道院)
片橋 謙(東京目黒道院)
松中 雄(東京蒲田道院)
山本 一(西東京保谷道院)
稲留 圭祐(亀有道院)

高橋 宏(東京戸越道院)
村山 大介(東京大塚道院)
田中 瑠己(東京大塚道院)
楠美 雅堂(杉並東道院)
山田 真良(葛飾西道院)
福田 広隆(豊野道院)
新田 道英(鎌倉道院)
安木 央生(横浜大六天道院)
荒川 兼哉(白山加賀野道院)
越元 佳美(春江南道院)
早川 昭(山梨峽東道院)
渡辺 政二(山梨峽東道院)
雨宮 利光(山梨峽東道院)
功刀 徳親(山梨峽東道院)
青山 侑未(三方ヶ原道院)
後藤 稜河(静岡馬淵道院)
田頭 裕子(豊橋道院)
平野 高至(愛知大府道院)
山本 浩市(春日井北道院)
田ノ上 智章(愛知小牧道院)
今泉 裕登(愛知小牧道院)
水永 幸年(愛知小牧道院)
寺島 圭一(名古屋一社道院)
外山 拓希(刈谷南道院)
中島 匡章(京都乙訓道院)
福留 誠治(東豊中道院)
関根 剛(東豊中道院)

2018年12月度 認証

交代

石狩花川道院 安住 光平
小野田道院 石井 仁人

法階昇格者

大範士

2019年1月13日付
平子 孝幸(平道院)
永田 昌範(大阪千里道院)
中山 満洲雄(須磨道院)

正範士

2018年12月16日付
松野 良弘(福井旭道院)
渡辺 竜彦(春江南道院)
西光 正博(大阪長野道院)
中川 純(本部道院)

准範士

2018年12月9日付
齊木 俊裕(帯広西道院)
中島 健(横浜戸塚道院)
鎌田 陵人(新潟共和道院)

2018年12月16日付

倉田 道夫(武蔵五日市道院)
岡村 敏史(西陣北道院)
野里 佳史(西陣道院)
古谷 貴紀(大阪三市道院)
中村 文夫(福岡筑紫ヶ丘道院)

2019年勤続表彰

55年

久保 博 東京目黒道院

50年

齋藤 秀明 佐野道院
川村 芳男 浜松中央道院
林 正次郎 春日井道院
高井 武志 紫香楽道院
深山 幸一 和歌山西脇道院
香川 忠 高瀬道院
小野 芳洪 伊予津島道院
大石 哲也 北条東武道院
坂本 龍夫 高知万々道院

45年

矢島 隆禪 川越道院
小宮山 宣司 浦和美園道院
鈴木 敏道 銚子道院
太田 孝一 市川道院
萩原 俊次 船橋東道院
近藤 慶武 東京品川道院
真田 玉雄 東京石神井道院
小池 修一 東京試衛館道院
高森 正一 中板橋道院
秋山 津斗務 沼津香陵道院
青島 勉 静岡三島道院
山本 昭三郎 名古屋東道院
伊澤 啓介 姫路白鷺道院
宮原 照雄 神戸六甲道院
増原 隆 西宮今津道院
溝口 利勝 土山道院
木村 惠昭 昆陽道院
白神 三郎 倉敷道院
小野 喜崇 津山道院
三浦 清二 徳島津田道院
柿元 一雄 薩州谷山道院

40年

松本 知幸 札幌もいわ道院
廣瀬 春雄 上土幌道院
齋野 光樹 福島桑折道院
片岡 三郎 八王子陵北道院
平井 美智雄 足柄道院
諏佐 一義 川崎柿生道院
黒部 忠夫 逗子道院
星 雅美 新潟魚沼道院
青山 昌伸 各務原東道院
清原 敏之 浜松北道院
新森 好博 龜山社中道院
野村 哲夫 小栗栖道院
林 清嗣 京都鴨川道院
阪口 清忠 貝塚南道院
入江 孝明 明石藤江道院
野村 裕 奈良尼ヶ辻道院
米澤 和雄 奈良片桐道院
富部 辰治 広島八丁堀道院
志藤 彰人 鳥栖道院
宮崎 司 熊本荒尾道院

35年

八木橋 敏 東室蘭道院
伊藤 正三 登別道院
齊木 俊裕 帯広西道院
大山 鉄男 札幌孝道院
野村 忠晴 札幌屯田道院
長内 哲男 青森南道院
西丸 和彦 勿来道院
鈴木 源治 茨城神栖道院
堀口 昌司 茨城那珂道院
三柴 始 栃木城南道院
内 宏明 市原東道院
伊藤 幸治 千葉清見台道院
中村 清 木更津東清道院
細谷 一太 町田山崎道院
森田 泰彦 東京国分寺道院
高木 達也 東京大久保道院
玉村 好 福井清明道院
柳手 稔 高山東道院
鈴木 裕治 磐田道院
江田 弘己 岡崎正名道院
近藤 武士 名古屋友愛道院
下尾 周三 滋賀守山道院
田中 和之 滋賀新旭道院
清野 姿 舞鶴道院
渡部 登美男 大阪今津道院
森 久往 和泉南道院

鈴鹿 成正 川西南道院
佐藤 美津男 広島東道院
倍地 弘憲 山口北道院
合田 雅彦 愛媛飯武道院
坂下 周二 鹿児島横川道院
上原 芳幸 薩州出水道院

30年

関根 弘 茨城三和道院
菊地 正克 日立南道院
小岡 雅男 宇都宮北部道院
江原 謙治 群馬前橋道院
須藤 安男 埼玉白岡道院
伊藤 正宏 埼玉飯能北道院
鎌倉 幸雄 市原有秋道院
小原 利男 千葉鴨川道院
永井 比佐志 南中野道院
岡村 明 東京保谷道院
石間 信一 八王子西道院
老沼 伸男 東京平井道院
中村 袈袋巴 大和一之関道院
江崎 健 川崎南生田道院
堀内 重博 名古屋立道院
若林 勉 京都北醍醐道院
河村 隆 京都桂坂道院
千代田 秋充 大阪葛城道院
浅妻 嘉光 大阪守口道院
小野 要助 大阪南百済道院
武貞 裕文 大阪難波道院
阪本 憲則 神戸板宿道院
津田 勝 奈良平城道院
真部 賢司 米子後藤ヶ丘道院
原 英彦 志度道院
石井 武俊 新居浜瀬戸道院
丸山 平之 福岡吉井道院
八代道院

25年

福村 徳弥 北海道標津道院
佐藤 淳一 仙台宮城野道院
河面 豊光 栃木足利道院
植木 勝 真岡中部道院
香川 薫 川口道院
立川 文雄 埼玉久喜道院
加藤 謙一 埼玉藤久保道院
中田 秀弘 武蔵村山道院
古川 真澄 東京上野道院
小林 貴志夫 鶴見瀬田道院
湯浅 裕二 信州望月道院
関山 勝敏 伊豆菰田道院
名倉 信次 春日井東道院
遠藤 直実 姫路東光道院
坪井 裕之 米子東道院
香山 善幸 広島脱少門道院
内山 博 福岡高田道院
松田 輝昭 門司東道院
藤田 修治 佐賀小城道院
大分府内道院

20年

日向 訓 盛岡仁王道院
向藤 誠一 宮城歌津道院
島山 多門 鷹巣南道院
高橋 直樹 福島中央道院
飯島 博 群馬新田道院
山口 達也 埼玉西秩山道院
百石 邦廣 八王子南大沢道院
五十嵐 好一 横浜星川道院
山田 善治 海老名東道院
佐久間 友仁 松本南道院
水野 久春 名古屋手道院
西光 正博 京都春日道院
丸山 純 大阪長野道院
寺田 敦夫 新居浜道院
西尾 和之 松山城北道院
後免道院

10年

上代 裕幸 札幌豊平道院
村上 尚 渋川道院
松本 智一 熊谷道院
島山 誠 埼玉入間道院
岡本 光弘 埼玉狭山南道院
川瀬 敦士 埼玉毛呂山道院
富澤 則夫 埼玉本庄児玉道院
中村 敏之 東京築地道院
中村 清恭 東京東陽町道院
深澤 宏 海老名道院
永田 博美 多治見青龍道院
加藤 利彦 岡崎中部道院
小塚 美幸 名古屋九池道院
木村 邦彦 清須西道院
秋葉 みどり 東海加木屋道院
岡部 弘志 大津坂本道院
川瀬 浩史 大阪平野道院
武本 勉 姫路南道院
是常 健太郎 西脇南道院
森田 典秀 鳥取浜坂道院
神野 敏 南予伊方道院
川畑 隆昭 愛媛しまなみ道院
竹田 英一 福岡嘉麻道院
松田 和子 福岡大野城道院
中島 良平 島原有明道院
山本 久雄 鹿児島川内北道院

お布施

布施

- ▷ 東京上野道院 中田秀弘 30,000円
▷ 宮城歌津道院 加藤誠一 30,000円
▷ 勝田台道院 小野寺米蔵 10,000円
▷ 豊田末野原道院 服部俊美 10,000円
▷ 原田秀昭 10,000円
▷ 浩志会 アカルイミライエ参加者一同 6,000円

公認講習会

- ▷ 東北地方教区 50,000円
▷ 東京都教区 50,000円
▷ 徳島県教区 50,000円
▷ 静岡県教区 30,000円
▷ 兵庫県教区 30,000円

訃報

中山 久義 元宇多津道院 元道院長、99期生、少法師大範士八段、2018年11月21日逝去、満77歳

編集後記▶今回の特集では、「よく来てくれた」と一人ひとりを出迎える道院長の話が印象的です。ほめてくれる人、いつも気にかけてくれる人が待っているという道場は、誰にとってもあたたかく貴重な空間です。▶技の修練を通して自分を高めるのですから、その指導にはつい力も入ることでしょう。でも「何でそんなこともできないんだ!と叱るときは、いつも自分が仕事でイライラしているときだった」とは、ある道院長の反省の弁です。▶ただの気分ではなく、ほめるのも、叱るのも相手を思う心があること。その思いを感じて人の心も動くのでしょうか。イソップ童話の「北風と太陽」のように、太陽のような心を持った道院長のもとで、拳士の心はいつしかほぐれ、その指導が心に届いていくのです。(さ)

表紙▶三野 智大 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禪総本山少林寺オフィシャルサイト▶
<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
 代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禪

検索

あ・うん | vol. 63
 金剛禪総本山少林寺広報誌
 2019 弥生・卯月

2019年3月1日発行(奇数月1日発行)

発行人: 大澤 隆

発行所: 金剛禪総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人: 坂下 充

印刷・製本: 株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌「あ・うん」追加発送について

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数に応じて10~20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎月ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山市教課にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

いちごいちえ
 一期一笑



イラスト/大原由軌子

おおさかいぶき たかただいすけ
 大阪伊吹道院 高田大輔

新しい命の誕生をファミリーで祝う

2018年6月13日、大阪伊吹道院の片山貢拳士(少導師、准拳士、初段)に新しい家族が誕生しました。長男(小3)7級、長女(小1)7級、次男(3歳)も見学中で、まさに一家揃って少林寺拳法ファミリーです。この度、そのファミリーに三男が加わったのです。奥さまより「近くの神社へお宮参りにいく代わりに、伊吹道院で出来ないかしら?」とお話があり、「これは素敵な話だ」と思い、すぐさま伊瀬道院長に相談し、「よし、やろう!」と快諾をいただきました。

お宮参りにちなんで、道院参りと名付けた儀式を8月4日(土)、導師を伊瀬道院長、脇侍を松井副道院長が務め、片山家一同と拳士会会長、道院の拳士が参列して執り行いました。お婆様の腕の中には赤ちゃんの安らかな寝顔があり、道院の仲間からのご祝儀が祝い着に結びつけ

てあります(関西地方のお宮参りにおける風習)。儀式の奉納演武は片山貢拳士の長男長女により行われ、兄弟のたのめ真剣な気持ちで微笑ましく伝わってきました。また伊瀬道院長の法話を聞きながら新しい命の誕生を厳粛に受け止めた。新しい仲間の誕生を喜ぶことができました。厳かな中にも温かさを感じる幸福な一時でした。

新しく生まれた命のため、家族、仲間が道院に集まり、健やかな成長を祈念するということは今まではなかったと思われまふ。しかし命の尊さ、喜びを感じ素晴らしい取り組みで「やってよかった」と皆が感じました。

これからも伊瀬道院長を中心に、道院の仲間を大切に、家族を大切に、まさに伊吹ファミリーとして精進して参ります。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禪総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp



宗門の行としての少林寺拳法

理想境につながっている

他者の主張を排除し、自己の主張を通すばかりでは世の中がよくなるはずがない。
人はお互いの尊厳を守り、尊重し合い、助け合って生きていく存在である。
日常も相対演練もまったく同じで、互いに尊重し合い、高め合い、共に楽しめる関係を築いていくことが大事である。
日々の修練の先に、開祖の目指された理想境がある。



屈身蹴転回連蹴

金剛禅総本山少林寺公式サイトで
動画をご覧いただけます。

撮影／志村 力 文／冨田雅志 演武者／守者：飯野貴剛 准範士七段 攻者：倉本巨康 准範士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法